

SRIMfit 技術メモ

Update Log :

2018.09/01 ver.3.01.00 インストーラー memo を追加。
2017.06/01 ver.3.00 マクロとWS分離に伴う変更。関数リスト追加。
2017.03/21 ver.2.12 ver.211 から転記。関数リストなど追加。

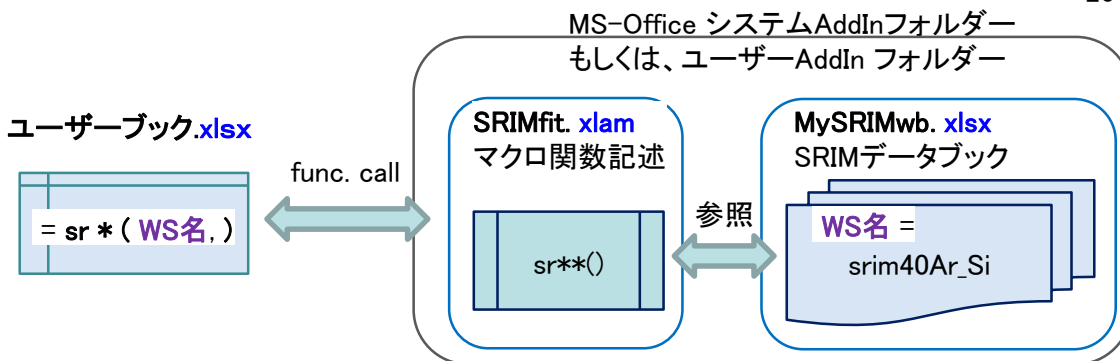
SRIMfit 技術メモ

目 次

- SRIMfit の構造
- 外部参照マクロとして使用(マクロの修正)
- マクロ利用のための Excel How To
- SRIMfit ver.2* の WS を移行する
- インストーラー・スクリプトmemo
- 参考文献

SRIMfit の 構造について

2017.06 記



「SRIMfit のUser I/F」で説明したように、SRIMfitの本体は、AddInフォルダーにインストールした
 SRIMfit.xlam マクロ記述ファイル (SRIMfit.xlsm) を Excel アドイン形式に Compile したもの
 MySRIMwb.xlsx ユーザーが記述する SRIM-2013 の計算結果データベース
 の2つです。

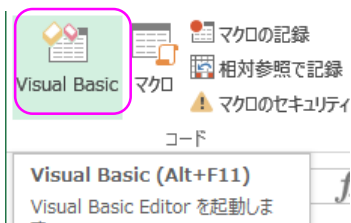
ここでは主に、マクロ記述ファイル の構造について説明します。

(1) マクロ関数記述「SRIMfit.xlsm」

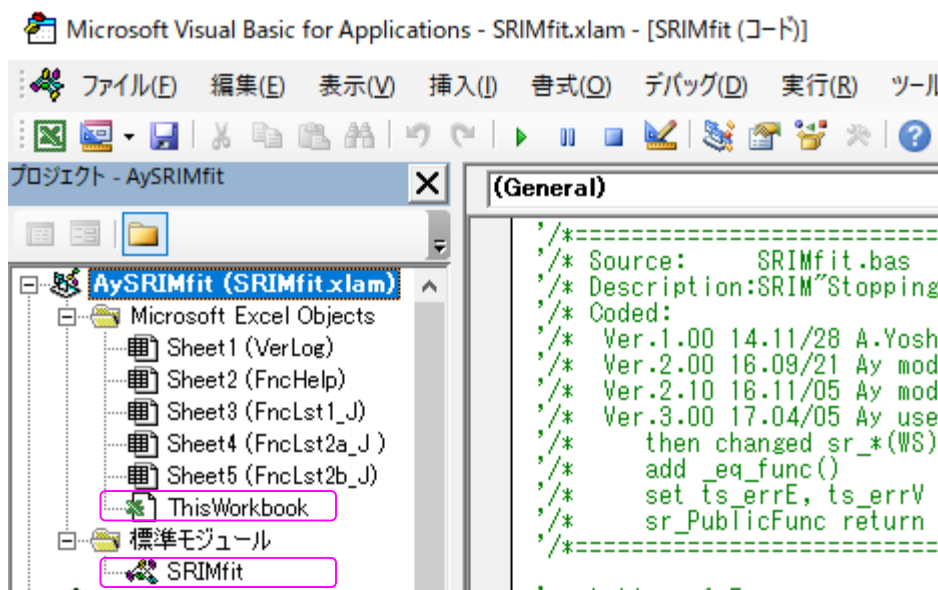
Compile 前の元ファイル は、.lib¥_xlsm¥ SRIMfit.xlsm にあります。

このファイルの中身を見る場合には、マクロ記述の 2重 Openを避けるため、
 [開発:アドイン] で、SRIMfit のチェックを外しておいて下さい。
 詳しくは、→【外部参照マクロとして使用(マクロの修正)】を
 参照してください。

元ファイルを開かなくても、マクロ関数記述の参照は可能です(プロテクトをかけていません)。
 [開発:Visual Basic] で、VBAエディタを起動すると、AddInフォルダーにインストールされている
 SRIMfit. xlam の マクロ記述の中身を見ることができます。



SRIMfit のマクロプログラムは、
 エクセルに標準装備されている
 Excel VBA (Visual Basic) で記述してあります。
 このリボンボタンをクリックすると、
 次頁のように VBA Editor が起動されます。



標準モジュール:SRIMfit が、マクロ記述のプロシージャ定義です。
 ThisWorkbook Class モジュール は、Excel起動時の AddIn 読み込み時に実行されます。

標準モジュール:SRIMfit には、
 【関数一覧】で示した、sr*() 関数 などが記述されています。

ThisWorkbook には、
 AddIn モジュール 又は 外部参照マクロブック として、このブックが Open / Colse
 された時に実行する処理が記述されています。

(2) マクロ起動・終了処理

マクロの起動・終了は、Excel システムによって自動的に行われます。
 Excel 起動・終了時に呼び出される関数は、ThisWorkbook モジュール中の
 Private Sub Workbook_Open() , Workbook_BeforeClose() です。

[開発:アドイン] の チェック を ON/OFF した時に呼び出される関数は、
 Private Sub Workbook_AddinInstall() → Workbook_Open() の順で open処理
 Private Sub Workbook_AddinUninstall() → Workbook_BeforeClose() の順で close処理
 です。

Open / Close 処理の詳細は、これら関数の記述を読んでみて下さい。

関数のヘルプメッセージの定義・定義消去 処理

MySRIMwb.xlsx ファイルの Open / Close 処理

などが実行されます。

この Open処理の時に、SRIMfit モジュールの Public Sub srMySRwb_open() が呼ばれ、

Private MySRwbNow As Workbook ← Current WorkBook ポインタ

が MySRIMwb.xlsx ファイルを指すように設定されます。

(3) マクロ関数の動作

SRIMfit モジュールに記述してある関数の関数名は、

```
sr * () : Public Function
sr_ * () : Private Function
```

のように分類してあります。

Public Function の殆どは、その引数に **WS名文字列** を call by value で指定します。

そして最初の処理として、**sr_SetWS()** を呼び出して、WSの切替動作を行います。

```
例: Public Function srE2Rng(ByVal WS As String, ByVal Ei As Double) As Variant
    sr_SetWS( WS )
    ~ ~
End Function
```

sr_SetWS() では、overhead 低減の為、最小限の WS切替処理を行います。

```
Private MySRwsNow As Worksheet ← Current WS ポインタ
Dim WSnow As String ← Current WS名
Private Sub sr_SetWS(ByVal WSnew As String)
    If (WSnew <> WSnow) Then
        Set MySRwsNow = MySRwbNow.Worksheets(WSnew) ← Current WS ポインタの設定
        With MySRwsNow ← 以降、このポインタ参照で、WS中の Cell 値を読み出す
            IxEmin = .Cells(RowEmin, ClmInfo)
            ~ ~ など、WSをアクセスするための共通情報だけ、メモリ変数に読み込む
        End With
        WSnow = WSnew ← Current WS 名 変数の切替え
    End If
End Sub
```

以上の様な手順で、MySRIMwb.xlsx ブック中の WS を随時切り替えて、マクロ関数が動作します。
つまり、MySRIMwb の内容全てを配列変数などに読み込んでいるわけではありません。
MySRIMwb を、多数のWSからなる構造体データベースとしてとらえ、Current WS ポインタ を頼りに
随時 Cell 参照を行っています。

この様な SRIMfit の構造設計により、AddIn マクロ起動時の overhead を低減し、
ユーザーが MySRIMwb データベースを適宜拡張可能な I/F を提供しています。

という事は、ユーザーの .xlsx ファイルから、WS名が異なる関数呼び出しを行うと、凄く遅くなるか？
と思われそうですが、 実際はあまり気にならないようです。
今までの使用経験上、sr_SetWS() のWS切替処理の overhead より、複雑な処理をする srEnew() などの
組合せ関数の呼び出し回数による負荷の方が大きいようです。

(メモ) MySRIMwb 以外を参照するには。。

srMySRwb_open(ByVal MyFn as String) は、MyFn の引数をとれるようにしてあります。
MyFn=NULL の時は、default で同じAddIn フォルダにある MySRIMwb.xlsx を開きます。
なので、ご自分の User.xlsx のThisWorkbook モジュールの Workbook_Open() で、独自の MyFn を指定すれば、
これが実現できるかもしれません。(作者にはその必要が無いので、まだ試していません。)

(4) 関数ヘルプメッセージの定義

関数選択ボックスに「関数のヘルプメッセージ」を表示するようにしました。

登録・削除を行うマクロ関数は、ThisWorkbook class module にある

```
Private Sub Fhelp_def() Fhelp_undef()
```

です。

登録関数は、FncHelp シート に記述した 関数とその引数一覧表に従って動作します。

一応、英語版、日本語版（スイッチで切替式）で説明文を書いておりますが、ツタナイ説明ですのでこのシートの内容を適当に修正して下さい結構です。シートの構造はいじらないように願います。

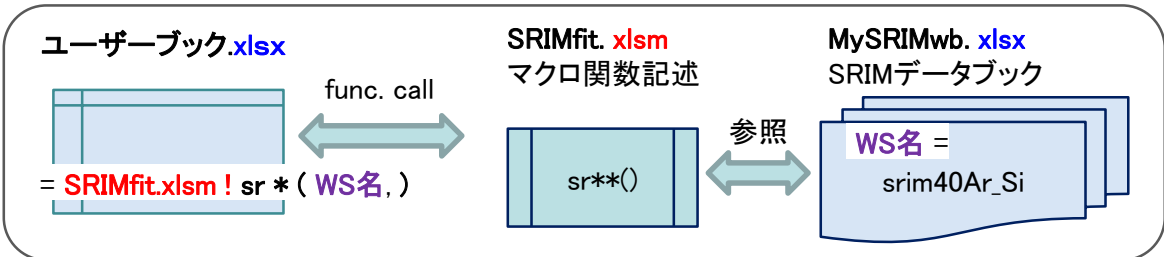
SRIMfit Function List						SRIMfit Function List (日本語表記)			
This sheet is used for Application.MacroOptions method. See the macro def. You can modify the contents of this sheet except its structure.						このシートは Application.MacroOptions メソッドで参照されます。詳しくは、ヘルプメッセージをご覧ください。			
Lang. mode			1	= 0: in English 1: in Japanese					
Num. of Func.			74	This function returns		この関数は、			
Func. Descr. Header				indicates		を返します。			
Func. Descr. Footer						は、			
Arg. Descr. Header						です。			
Arg. Descr. Footer									
Func. No.	Function Name	Num. of Args	Func. Description in English	Arg. Description		関数の説明 in Japanese		関数に渡すパラメータの説明 in Japanese	
1	srMcrVer	0	SRIMfit ver			SRIMfit version番号			
2	srMcrPath	0	SRIMfit installed path			MySRwb のインストールPath			
3	srMcrWbName	0	Users SRIM workbook file name			MySRwb の File Name			
4	srMcrWbCount	0	Number of the Users SRIM worksheet			MySRwb に含まれる Sheet数			
5	srMcrWbList	0	Name list array of the Users SRIM worksheet			MySRwb に含まれる 全Sheet名 を 1Dim文字列配列で返す			
6	srElmNm	1	Element symbol	Element(2) number = 1..118		元素記号		元素番号 Z=1..118	

外部参照マクロとして使用(マクロの修正)

2017.06 記

今まで説明してきた AddInマクロ関数 としての使い方以外に、外部参照マクロ関数 として使う場合について説明します。AddIn方式の方が便利なので、あまり使う機会は無いのですが、例えば「マクロ関数部分の修正(デバッグ)」など、SRIMfit.xlsm を .xlsm 形式にコンパイルせずに扱う必要がある時には便利です。

同じフォルダー

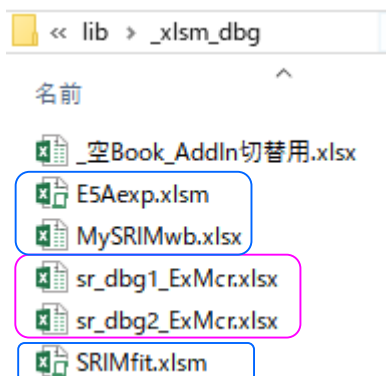


外部参照マクロ として使う場合、今までのAddInマクロと異なる点があります。

- マクロ記述ファイルは、SRIMfit.xlsm です。SRIMfit.xlam ではありません。
- 3つのファイル： ユーザーブック.xlsx と SRIMfit.xlsm と MySRIMwb.xlsx は、なるべく、**同じフォルダー** に置いたほうが便利でしょう。
- ユーザーブックからの関数呼び出しは、
 同じフォルダーの場合： = SRIMfit.xlsm ! sr**(WS名, param)
 違うフォルダーの場合： = 'c:¥ディレクトリ¥ツリー¥SRIMfit.xlsm' ! sr**(WS名, param)
 のように、フルパスを シングルクォート " でくくれます。
- 3つのファイルの起動順番は、
必ず最初に、SRIMfit.xlsm を開いておく。
 この中の Workbook_Open() で MySRIMwb.xlsx は自動的に開かれます。
 それから、 ユーザーブック.xlsx を開く。

(1) SRIMfit.xlsm のデバッグ環境

参考として、.lib¥_xlsm_dbg 以下に、デバッグ環境をおいてあります。



Original .xlsm ファイル

マクロ記述ファイル SRIMfit と E5Aexp の元ファイルです。
プロテクトはかけてありません。

Debug 用 .xlsx ファイル

SRIMfit 関数のデバッグ用ファイルです。
関数呼出しは、外部参照マクロ 形式にしてあります。

空Book_AddIn切替用.xlsx は、
AddIn切替手順ガイドが書いてあるだけの空ブックです。
内部には、関数呼出しも、マクロも書いてありませんので、
外部参照 ↔ AddIn の切替時に、安全に使えます。

(2) SRIMfit.xlsm の デバッグ手順

1) AddIn を解除する

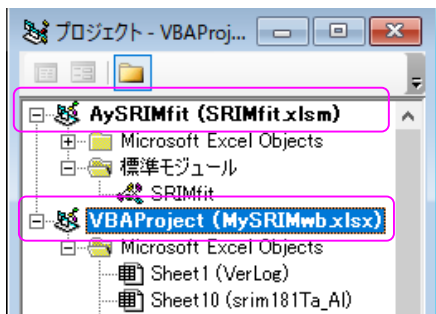
_空Book_AddIn切替用.xlsx を開いて、
「外部参照マクロ」として用いる場合 のガイドに従って下さい。

2) マクロが実行可能な環境であることを確認

【Excel HowTo: HwTo-02】に従って、
マクロが実行可能になっているか再確認しておいて下さい。

3) ファイルを開く順番に注意

必ず最初に、SRIMfit.xlsm を開いておく。次にユーザーブック(例: sr_dbg1_ExMcr.xlsx) を開く。
SRIMfit.xlsm 起動時の Workbook_Open() から MySRIMwb.xlsx がOpenされているかを確認する。

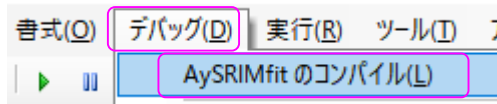


SRIMfit.xlsm 起動直後に、
VBAエディタ:プロジェクトを見て
SRIMfit.xlsm と一緒に
MySRIMwb.xlsx も読み込まれているかを確認する。

MySRIMwb.xlsx が読み込まれていないと、
ユーザーブックの sr*() 関数参照セルの表示が
エラー表示 (#NAME? など) となります。

4) ファイルの保存

3つのファイルのうち、変更を加えたファイルは随時 CTRL+S で保存しておきます。安全の為。
また、SRIMfit.xlsm のマクロ記述を 大幅に変更した場合(例:関数追加・削除・名前変更など) は、



VBAエディタの[デバッグ:コンパイル]を実行し
エラーが無いことを確認の上、
SRIMfit.xlsm を CTRL+Sで保存し、
一度Excelを終了してください。
Excelが再起動された時に、変更結果が有効になります。

5) AddIn モジュールとして保存

外部参照マクロ から AddInマクロ として使う場合は、
【Excel HowTo (HwTo-04) ファイル形式を変換して保存】を参照してください。

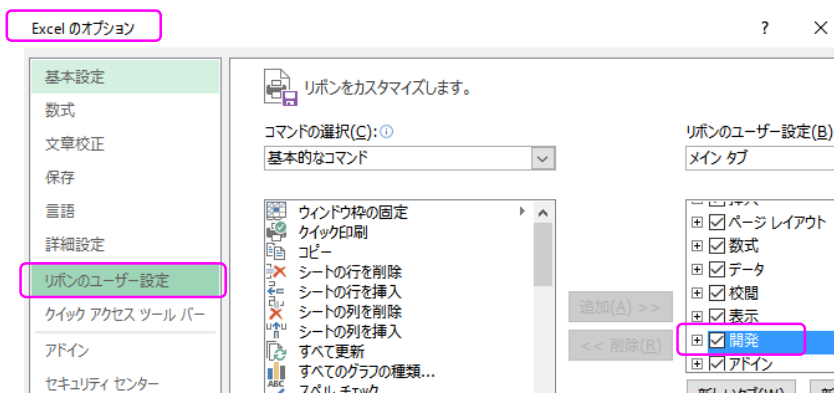
マクロ利用のための Excel How To

2017.06 記

Excel でマクロを使用する場合に必要なテクニックの How To 集です。
図は、Win10 Excel2013 の場合で説明します。他の環境では、表示が多少異なる場合があります。

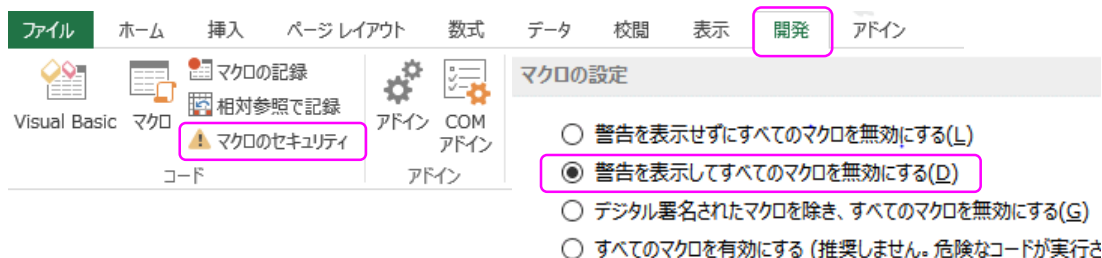
(HwTo-01) [開発] タブ を表示する

[ファイル:オプション:リボンのユーザー設定]で、メインタブ の [開発] にチェックを入れます。



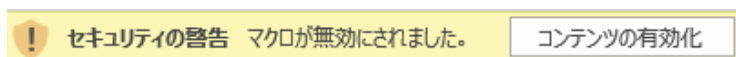
(HwTo-02) マクロを実行できる環境にしておく

[開発]タブ が表示されるようになったことを確認します。 次に、
[開発:マクロのセキュリティ]で、「警告を表示しすべてのマクロを無効にする」をチェックします。



セキュリティ上の観点から、この様な設定にしておいた方が安全です。
「警告を表示せずにすべてのマクロを無効にする」という設定では、マクロが動作しません。

マクロファイルのフォルダ位置やファイル名等を変更した後に、



と表示される時があります。その場合は「コンテンツの有効化」をクリックしてください。

マクロ呼び出しを膨大な回数行っているブックを開いた場合、
エクセル画面がずっと真っ白のままで、画面最下行に「再計算」表示
が現れます。

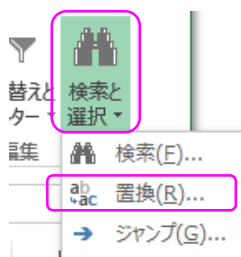
再計算: (プロセス 8 個): 25%

お使いのCPUの性能により、待ち時間は異なりますが、
あまりにも 遅い！ 重い！ 場合には、1つのブック内のWS数を減らしてみてください。

(HwTo-03) 数式の一括置換

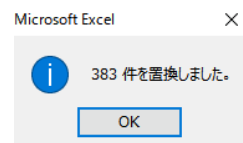
ユーザーブック (*.xlsx) において、

- リンクエラー発生の際に、操作を間違えて、全ての数式がフルパス表示に書き換わってしまった…
 - AddInマクロ ↔ 外部参照マクロ の関数呼出しを変更する
- といった場合に必要となるテクニックです。

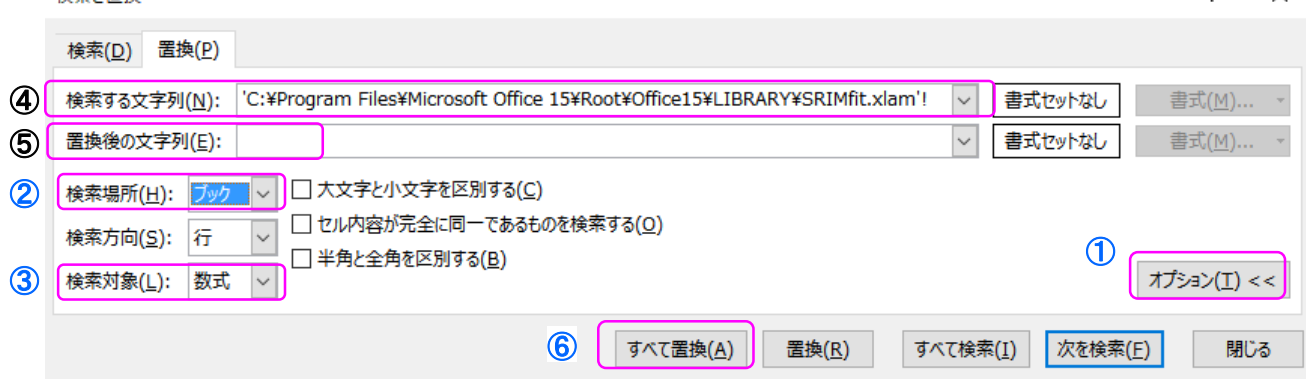


[HOME] リボンの [編集:検索と置換] を用います。

- ① オプション メニューを表示させます。
- ② 検索場所 は、ブック全体 を指定します。
- ③ 検索対象 は、数式 についてです。
- ④、⑤ で、検索と置換 の文字列を指定し、
- ⑥ すべて置換 をクリックして暫く待ちます。



検索と置換



フルパス表示を修正する

修正前 = 'c:¥Program Files¥~¥SRIMfit.xlam'! srFunc() → 修正後 = srFunc()
 とした場合は、

- ④ 検索する文字列 は、「フルパス」部分の文字を指定します。即ち、'C:¥~ ¥~' ! で、
 シングルクォート から シングルクォート と ! マークまで です。
- ⑤ 置換後の文字列 は、空白のまま です。

外部参照マクロ ↔ AddInマクロ の修正

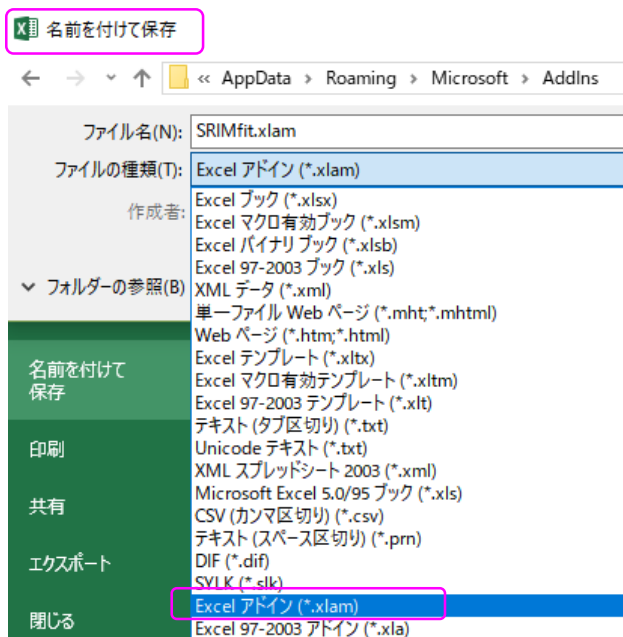
外部参照マクロ 「= SRIMfit.xlam ! srFunc() 」 ↔ AddInマクロ 「= srFunc() 」
 ですので、

- ④、⑤ は、「= SRIMfit.xlam !sr 」 か 「= sr 」 で指定します。

(HwTo-04) ファイル形式を変換して保存

例えば、マクロ記述がある SRIMfit.xlsm など、AddIn 形式 (*.xlam) で保存する時に必要となるテクニックです。

1) 形式を変換して保存



[形式を変換して保存する “前に”
変換元のファイルを、
CTRL+S で保存 しておきます。

[ファイル：名前を付けて保存] で、
ファイルの種類 をクリック すると、
ファイル形式の一覧表が表示されます。

AddIn マクロとして用いる場合は、
Excelアドイン (*.xlam) を選択します。

*.xlam ファイルの保存場所は、デフォルトでは ユーザーAddIn フォルダ
c:\¥～ ¥ユーザー名¥AppData¥Roaming¥Microsoft¥AddIns
になっています。必要に応じて保存先を変更してください。

尚、～ ¥ユーザー名¥AppData は、通常は非表示フォルダです。
表示させるには、エクスプローラの[表示:隠しファイル]にチェックを入れます。

2) 保存 しないで、エクセルを終了

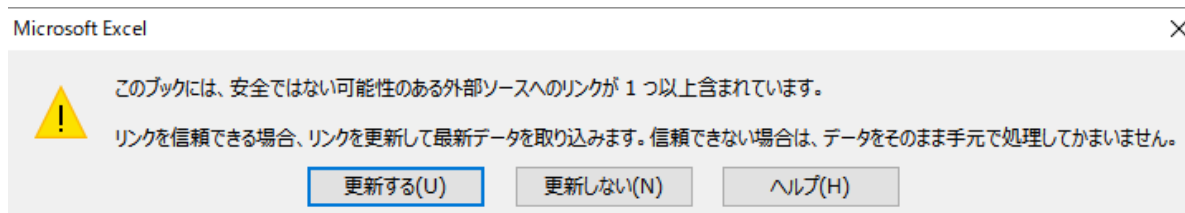
変換して保存後に、変換元のマクロファイルの終了方法ですが、
通常のように 保存してから終了すると、リンク先が上記の保存先 (ローミング用AddInフォルダ等)に
「自動的」に置き換わってしまうことがあるので、注意が必要です。
「保存しますか？」と表示されたら「キャンセル」して、エクセルを終了します。
尚、「MySRIMwb.xlsx を 保存？」と聞かれることもあります。
このファイルは SRIMfit.xlsm から ReadOnlyOpen しているので、保存は「キャンセル」します。

3) 保存された SRIMfit.xlam を、手動で移動

保存された .xlam ファイルを、
インストールガイド で述べた様に、指定されたAddInフォルダへ 手動で移動して下さい。
そして、有効なAddIn モジュールのチェックを入れてください。

(HwTo-05) リンクエラー対策

ユーザーが作成した sr*() 関数を呼び出している *.xlsx ファイルを開いた直後に、次のようなメッセージが表示されることがあります。



どのような状況で、このメッセージが表示されるかというと、(作者の経験では…)

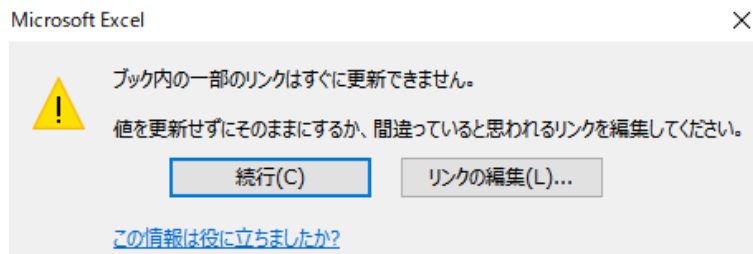
- Case 1) AddIn 選択の チェック を ON/OFF した後
- Case 2) AddIn フォルダの .xlam を更新した場合
- Case 3) AddIn フォルダの場所を変更した場合
- Case 4) sr*() 関数のマクロ呼出し方法を AddIn ↔ 外部参照 に切替えた場合
- Case 5) 何か操作を間違っ、sr*() 関数の呼出しが フルパス表示 になった場合
- Case e.t.c) マクロでは無い他のリンクエラーの場合

このように、いろいろな場合があるので、一概にその対処方法を決めることはできないのですが、以下にケーススタディを述べます。

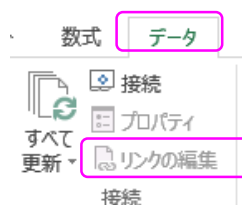
- Excel の リンクエラー について 詳しい説明 は、
下記文献をご覧ください。大変詳しく明快に開設されております。
http://addinbox.sakura.ne.jp/Excel_Tips21.htm AddinBox 角田 桂一氏
Excelのリンクの管理と格納(ワークブックの移動で起きるリンクエラーの仕組み)

Case 1), 2) は、→ AddIn の リンク元を確認 だけで済むことがある

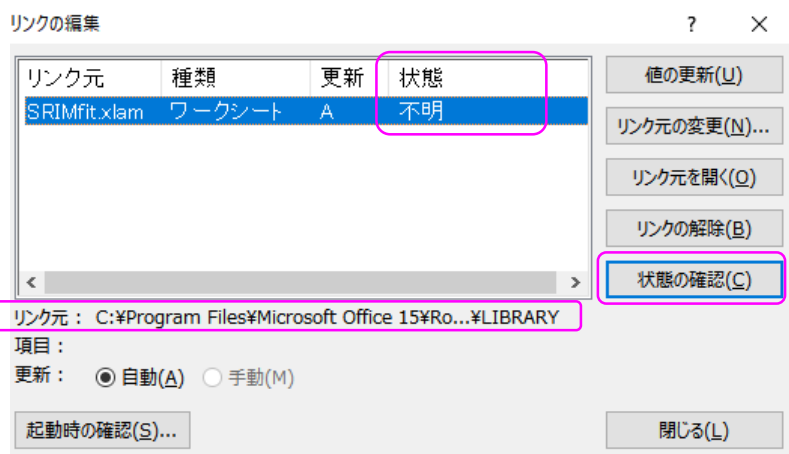
前のメッセージで「更新する」を選択してください。
すると、続けざまに、次のメッセージが表示されます。



また迷うのですが、「リンクの編集」を選択してください。すると、次のウインドウが表示されます。

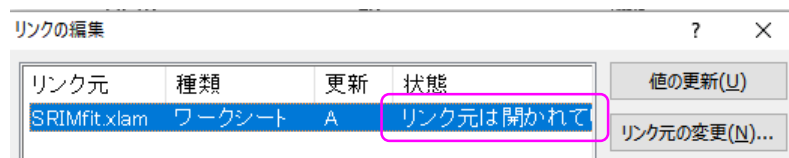


尚「リンクの編集」は、リボンメニューから
[データ：リンクの編集]を選択しも
随時確認することができます。



SRIMfit.xlam の「状態＝不明」と表示されている場合があります。

リンク元:c:¥～
は正しそうなのに、変だなあ～と思われる場合は、「状態の確認」をクリックしてください。



AddIn のインストールが正しければ、「状態＝リンク元は開かれています」と表示されます。

「閉じる」をクリックして終了。

そして、“念のため” エクセルを再起動 します。
その時、今エラー表示になっているブックは、「保存しない」で、再起動 したほうが安全です。
保存すると、エラー表示になっているセルの内容も そのまま保存されてしまう事があるからです。
再度、同じブックファイルを開いて エクセルを再起動してください。
エクセルシステムが、ブック中のセル全てについて、正しく修正されたリンクを用いて、「再計算」を実行してくれます。

Case 3) は、→ AddIn の リンク元を変更を試みる

上と同じウインドウで、「リンク元を開く」や「リンク元の変更」をクリックしてください。

インストールガイドで説明した、AddIn フォルダ

MS-OfficeシステムのAddIn フォルダ : [Application Library Path](#)

ユーザー AddIn フォルダ : [Application UserLibrary Path](#)

のどちらかに、リンク元の .xlam があることを確認・変更 してください。

その後、「状態の確認」をクリックして、「状態＝リンク元は開かれています」と表示されれば、OK “でしょう”。

そして、case 1),2) と同じく、“念のため” エクセルを再起動 します。

Case 4), 5) は、→ #NAME? とエラー表示されている セル内の数式 を編集する

最初のメッセージで「更新しない」を選択、次のメッセージで「続行」を選択すれば、メッセージは消えて、通常の画面に戻ります。

ブック内のセルで #NAME? や #REF! エラーが表示されている箇所を探し出します。

セル内の、関数呼出し式 の確認をしてみてください

例えば、次の様に 長～い 記述式 になっていませんか？

例1) = 'C:¥Users¥ユーザー名¥AppData¥Roaming¥Microsoft¥AddIns' ! srInfoIonZ(C\$3)

例2) = 'C:¥Program Files¥Microsoft Office¥～¥～¥LIBRARY¥SRIMfit.xlam' ! srInfoIonZ(C\$3)

参照先のワークブックやアドインブックが開かれている状態では、

= srInfoIonZ(C\$3) のように、短く「**関数名のみで表示**」されます。

参照先のブックが閉じている状態では、

= '参照先のフルパス' ! srInfoIonZ(C\$3) のように「**フルパスが付いた表示**」となります。

この「**フルパス表示**」は、

自分で意図的に記述していなくても、ブックを保存する時に自動的に付加されます。

これが最近バージョンのエクセル仕様のようで、便利なようですが、時に非常に厄介な機能です。

参照先のリンクが切れた状態で 保存 してしまったファイル や、

保存する時はリンクがつながっていたけれど、再度開いた時にリンク切れが発生した場合 は、

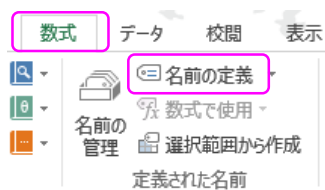
今まで短い「**関数名のみ表示**」で記述していたにもかかわらず、

保存された時の環境で参照していた「フルパス」が付加された長～い表示に自動修正されてしまうようです。

このような、関数呼び出し式のエラーが見つかった場合は、

【(HwTo-03) 数式の 一括 置換】に述べた方法で、変更を試みて下さい。

Case e.t.c.) は、→ 名前の管理 を確認してみる



マクロ関数参照のエラーではなく、

名前参照のエラー の濡れ衣 という可能性もあります。

リボンメニューから **[数式：名前の定義]** を選択し

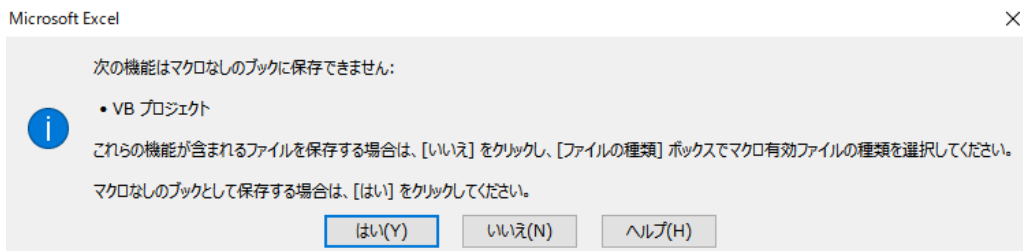
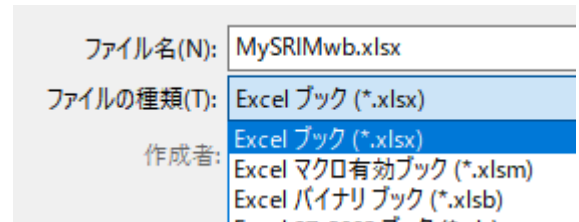
ブック内の名前参照にエラーが発生していないか確認して下さい。

「SRIMfit のUser I/F」で説明したように、
ver 3 からは、SRIMfit.xlam(ver3) と MySRIMwb.xlsx を分離しました。
ver 2 では、SRIMfit.xlam(ver2) 内部の WS として、MySRIMwb のWSを入れてありました。

よって、作業は簡単で、
SRIMfit.xlam(ver2) を アドイン形式で保存した時の、ご自分の元ファイル
SRIMfit.xlsm(ver2) から、マクロ部分を消去 して、MySRIMwb.xlsm を作る
だけです。

マクロ部分を消去して MySRIMwb.xlsx で保存

今まで使っていた SRIMfit.xlsm (ver2版) を開きます。
[ファイル: 名前を付けて保存]で、
ファイル名 = MySRIMwb
ファイルの種類=Excelブック (*.xlsx)
で保存します。



当然の様に、上のような警告メッセージが表示されますが、「はい」でOKです。

作った MySRIMwb.xlsx を、AddIn フォルダに保存

あとは、インストールマニュアルに従って、
SRIMfit.xlam をインストールしたのと同じ AddInフォルダー へ
MySRIMwb.xlsx を 上書きコピー して下さい。

● 自動インストールスクリプトは、VBScript + DOS BAT にしてあります。

SRIMfit のインストールは単純で、ファイル2～3個を copy するだけなので、Visual Studio などでインストーラーを作成する程の必要はない。

ネット検索して、ちょうどよい例題 [ref Inst01](#)) があったので、これを参考にさせて頂いた。



このスクリプトは、VBscript で記述されており、Excel の AddIn フォルダの場所を取得、AddIn.Add でアドイン追加までしてくれる優れものであった。
但し、インストール先フォルダが UserLibraryPath であったので、これを Excelシステムの LibraryPath に変更することにした。

[問題発生1]: システムフォルダへcopy するので、管理者権限で VBscript を実行する必要あり。

でも、残念ながら VBS を右クリックしても、「管理者として実行」のメニューが無い。
いろいろ探した結果、VBSを管理者として実行する方法 [ref Inst02](#)) を見つけた。
これは正しく動作した。 が、スクリプトが(私には) 難しいので、採用しないことにして、
同 ref) に記されていた次の方法にした。

[解決策1]: VBSを呼ぶ DOS BATファイルを作成し、これを管理者モードで実行にした

DOS BATを管理者モードで実行すると、C:¥Windows¥system32 がカレントパスになってしまうので、
[ref Inst03](#)) を参照して、BATのカレントディレクトリを、BATファイルのディレクトリにした。

参考文献

- [Inst01](#)) <https://qiita.com/fuku2014/items/9c72fc04265bfc7f7f40>
【Excel】アドインをインストールするスクリプト ; Qitta @fuku2014
- [Inst02](#)) http://masahiror.hatenadiary.jp/entry/20111201/vbs_admin_run
VBSを毎回「管理者として実行」する方法 ; masahirorの気まま記録簿
- [Inst03](#)) <http://d.hatena.ne.jp/nakamura001/20090203/1233652705>
[Windows][バッチファイル]カレントディレクトリをバッチファイルのディレクトリにする

参考文献

SRIMfit の開発に当たっては、以下の文献・HomePageなどを参考にさせていただきました。
参照させて頂いた箇所については、詳しく記載できておりませんが、ご了承ください。
以下の諸先生方に感謝申し上げます。大変勉強になりました。

SRIM コード

SR01) <http://srim.org/index.htm> SRIMコード James F. Ziegler氏

Excel VBA 関連全般

以下順不同です

VB00) <https://msdn.microsoft.com/ja-jp/library/office/ee861528.aspx> Microsoft Office Dev Center

VB01) <http://www.asahi-net.or.jp/~ef2o-inue/top01.html> Excelでお仕事！ 井上 治氏

VB02) <http://home.att.ne.jp/zeta/gen/excel/> エクセル大辞典 武藤 玄氏

VB03) <https://sites.google.com/site/compositiosystemae/home> VBAシステム開発 氏

VB04) <http://excelshogikan.com/vba/vba.html> エクセル将棋館 氏

VB05) <http://www.moug.net/tech/exvba/> mougモーグ モーグ編集部殿

VB06) https://kokodane.com/macro_kouza.htm なんだ！カンタン！Excel塾 管理人殿

VB07) <http://www.clayhouse.jp/index.htm> Excel研究室 土屋和人氏

AddIn モジュール化 関連

AI01) <http://addinbox.sakura.ne.jp/index.htm> AddinBox 角田 桂一氏

AI02) <http://excel-ubara.com/excelvba4/> エクセルの神髄 鵜原パソコンソフト研究所殿

AI03) <http://officetanaka.net/excel/vba/tips/> OfficeTANAKA 田中 亨氏

以上です。

SRIMfit が、どなたかの実験のお役に立てれば幸甚です。

理研仁科加速器科学研究センター産業利用開発チーム あ吉田